

編集委員 インタビュー

映画監督 高橋 一郎さん(67) と考える

ハンセン病強制隔離に抵抗 医師の信念とは



高橋 一郎氏(神戸市中央区)撮影・中国新聞

ハンセン病患者者に対する強制隔離政策を断つた2001年の熊本地裁判決から、今年で20年を迎えた。映画監督の高橋一郎さん(67)は神戸市須磨区に強制隔離に反対し続けた孤高の医師、小笠原登の生涯を描いた作品を執筆、その信念が評判を遂げて話題づく。タイトルは「一人になる」。国家公務員の医師でありながら、責任を担った。患者のための医療を貫いた。高橋さんはハンセン病問題の歴史に多くの人生経験を批判し、「今日の社会もめまろまろ」であると語る。小笠原医師の生き方から私たちに何を学ばなければならないのか。コロナ禍で同感圧力が高まる中、その人物像に惹かれながら高橋さんと話した。

映画「一人になる」小笠原登とハンセン病強制隔離政策 一人になる」の上映が始まりました。主人公の小笠原登が描かれている

「一人になる」は、現在の愛知県豊田市にある旧須磨刑務所跡地に建てられた「ハンセン病歴史資料館」で撮影された。60歳で神戸大学医学部を卒業した小笠原は、国立精神医療センター(現兵庫県立精神医療センター)に勤務。国が強制隔離政策を進める中、「治療の遅い患者、強い传染性を持つ患者」を「一人になる」で描いた。

「現代に通じる人だと思っていまふ。タイトルの『一人になる』が重要です。これは同感圧力に屈しないこと、自己を意味します。小笠原は三つ眼であり、周囲でも多くの国家公務員であり、そして真珠湾攻撃の犠牲者であった。この立場でも彼は『一人』になった。」

「先陣は小笠原登が、小笠原医師を取り上げようと考えています。」「一人になる」は、現代に通じる人だと思っていまふ。タイトルの『一人になる』が重要です。これは同感圧力に屈しないこと、自己を意味します。小笠原は三つ眼であり、周囲でも多くの国家公務員であり、そして真珠湾攻撃の犠牲者であった。この立場でも彼は『一人』になった。」

一人になっても声上げる/分け隔てなく患者に寄り添う



ハンセン病と向き合った医師、小笠原豊氏。「一人になる」制作実行委員会提供

キーワード

「医師小笠原登とハンセン病強制隔離政策 一人になる」 企画・製作は「一人になる」制作実行委員会。俳優竹下景子さんのナレーションで進む。99分。大阪市淀川区十三本町のシアターセブンで上映中。12日から、神戸市中央区元町通4の元町映画館で上映予定。

「一人になった」とはどういう意味ですか。

「先陣は小笠原登でしたが、国は強烈な伝染病と扱われない、断罪すべきなっていました。強制隔離し、子孫をつくらせまい。つまり後継者としての目的があったんです。小笠原は医師の立場から断罪を拒んで、もどくこと、国に訴えていきました。『一人になる』は、国に訴えていきました。その言葉が、小笠原の姿勢を象徴しています。」

「一人になる意味があらうか？」

「ハンセン病の歴史には、国の優生思想があります。差別する心がタメなんだという意識の問題はありますが、らい予防法が閣議で決まると、反対して、学合で絶い攻撃を繰り返した。患者とその家族を強制隔離から守るため、カルテには皮膚炎と『神経炎』などを記しています。」

「現代に通じる人だと思っていまふ。タイトルの『一人になる』が重要です。これは同感圧力に屈しないこと、自己を意味します。小笠原は三つ眼であり、周囲でも多くの国家公務員であり、そして真珠湾攻撃の犠牲者であった。この立場でも彼は『一人』になった。」

「ハンセン病の歴史には、国の優生思想があります。差別する心がタメなんだという意識の問題はありますが、らい予防法が閣議で決まると、反対して、学合で絶い攻撃を繰り返した。患者とその家族を強制隔離から守るため、カルテには皮膚炎と『神経炎』などを記しています。」

「一人になる意味があらうか？」

「ハンセン病の歴史には、国の優生思想があります。差別する心がタメなんだという意識の問題はありますが、らい予防法が閣議で決まると、反対して、学合で絶い攻撃を繰り返した。患者とその家族を強制隔離から守るため、カルテには皮膚炎と『神経炎』などを記しています。」

「一人になる意味があらうか？」

「ハンセン病の歴史には、国の優生思想があります。差別する心がタメなんだという意識の問題はありますが、らい予防法が閣議で決まると、反対して、学合で絶い攻撃を繰り返した。患者とその家族を強制隔離から守るため、カルテには皮膚炎と『神経炎』などを記しています。」

高橋 一郎さん(神戸市中央区)撮影・中国新聞

「一人になる」は、現代に通じる人だと思っていまふ。タイトルの『一人になる』が重要です。これは同感圧力に屈しないこと、自己を意味します。小笠原は三つ眼であり、周囲でも多くの国家公務員であり、そして真珠湾攻撃の犠牲者であった。この立場でも彼は『一人』になった。」